

企業に求める 産学連携ニーズ 発表会



オンライン

視聴無料

2026年度 補助金情報



北海道内の研究者と企業の産学連携による新規事業の創出を目指したイベントをオンラインで実施いたします。

研究の社会実装に向けては、事業化や製品化を目指す過程で企業の力が必要になる場面があります。本イベントでは、5名の研究者が企業に求める産学連携ニーズを発表し、後日、情報交換・マッチングの機会を提供いたします。

ぜひこの機会をご活用ください。

試作したい

汎用的な
製品にしたい

AIで解析
したい

ソフトウェア
を開発したい

日時：2026年**3月24日**（火） **13：00～14：40**

申込先：<https://forms.gle/dw7v5joYLyZNsaVy5>

申込期限：2026年3月18日（水）

主催： **SAPPORO** **NOASTEC**

協力： **B** SAPPORO
BI LAB



【問い合わせ先】

公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）

研究開発支援部 花房・小原

011-708-6392 kenkyu@noastec.jp

企業に求める産学連携ニーズ

背中に敷くだけで腹式呼吸を促進する補助具の開発

医療法人社団春佳会スウェーデンヒルズ耳鼻咽喉科 理事長・院長／東山 佳澄 氏

腹式呼吸は深く呼吸を行えるため、代謝改善、免疫力増強、自律神経を整える等の効果があります。特に喘息患者では夜間呼吸困難の軽減に腹式呼吸が必須です。私が試作した器具を用いれば自然に腹式呼吸を行えるようになり、喘息患者だけでなくスポーツ後のクールダウンや長時間運転での浅い呼吸の改善など、QOLの向上が期待できます。この器具の効果の検証・製品化を共に進めて頂ける企業を希望します。

PICU専門医クローンAI基盤構築の技術ニーズ

一般社団法人 Heartkids' LIFELINK 主任研究員／酒井 渉 氏

小児集中治療室(PICU)では、視診・生体情報・医師の会話や判断を統合した高度な意思決定が求められる。本発表では、視診を含む多様な感覚・行動データを取得するIoTシステム、専門医の診療思考を再現するクローンAI構築、さらに現場の会話よりアルゴリズムを抽出しAIを効率的に進化させる手法について、現場からの技術ニーズを共有する。

高齢脳卒中患者における

退院時日常生活自立度AI予測アプリの社会実装

北海道科学大学保健医療学部理学療法学科 助教／松田 涼 氏

高齢化により脳卒中患者の病態は複雑化しています。退院時の日常生活自立度を正確に予測することは、病棟運営とリハビリ計画の両面で重要です。私たちはカルテ情報のみでAIによる高精度な予測モデルを開発し、アプリ化を進めています。予測根拠の可視化UIや多施設データ統合基盤について、共同開発にご興味のある企業様をお待ちしております。

AI行動分析を用いた独居高齢者に対する

軽度認知障害の遠隔的自動把握システムの開発

札幌医科大学保健医療学部理学療法学科 准教授／井平 光 氏

映像によるAI行動分析システム開発により軽度認知障害(MCI)を遠隔的に把握したい。研究チームが取得済みの模擬MCI動画に対して、AI技術を用いたMCI判定を実施できる企業と連携を図りたい。模擬MCI動画は、5分程度の食事動作であり、正常動作と異常(認知症)動作が含まれる。専門家の判定とAIの判定を比較し高精度のMCI自動判定を目指す。本学のリソース(多数のMCI患者での実証、多数の道内自治体との連携)を最大限活かしたい。

マルチスペクトルイメージングによる内視鏡診断システムの開発

北海道大学大学院工学研究院 助教／岡田 夏男 氏

本研究ではヒトの色識別能力を遥かに凌駕するマルチスペクトルイメージングとAIを組み合わせた内視鏡画像診断システムの開発により悪性腫瘍の認識精度を向上させる。企業とはハード面や知財関連で協力関係を築きたい。